■山田方谷　　儒学者。″備中聖人″。農家の出ながら，藩主板倉勝静と″君臣水魚の交わり″，ダイナミックな藩政改革を実現。
やまだほうこく

青洲麻酔手術1805＝　備中国松山藩領阿賀郡西方村で，清和源氏を祖とする絞油業を営む御目見格の長百姓山田五郎吉(重美)と梶の長男に生まれる。名は球，通称安五郎。
曾祖父の時代の事件で窮乏する家ながら，両親が教育熱心で，
間宮海峡発見1808＝ 3歳：母から読み書きを習った後，
浮世風呂・・1809＝ 4歳：隣接する_新見藩の儒官で佐藤一斎とも親交ある丸川松隠に預けられると，

神童ぶりを発揮，

浮世床・・・1813＝ 8歳：_山田家を訪問した客から，学問の目的を聞かれて，″治国平天下″と答えるほどであったが，
黒住教・・・1814＝ 9歳：

水野忠成老中1818＝13歳：_母の死去に続いて，
群書類従完結1819＝14歳：_父も死去。学問に身が入らなくなったところを，師松隠に諭され覚醒，詩「述懐」を提出し，弟たちを養うため，辞して家業に就き，独学に励むうち，

_篤学の名声が高まり，
ｼｰﾎﾞﾙﾄ来日・1823＝18歳：

異国船打払令1825＝20歳：_備中松山藩主板倉勝職から認められ，二人扶持を給されて，藩校{有終館}で学ぶことを許され，

日本外史・・1827＝22歳：_京都に派遣されて，師松隠の知己で朱子学者の宇島白鹿に学び，
ｼｰﾎﾞﾙﾄ事件・1828＝23歳：
ｼｰﾎﾞﾙﾄ追放・1829＝24歳：*帰藩すると，中小姓格で藩校{有終館}会頭に抜擢され，苗字帯刀を許され，藩士に列する。

富嶽三十六景1831＝26歳：_会頭を辞して再び上洛，春日潜庵ら多くの学者と往来，
鼠小僧磔・・1832＝27歳：
天保大飢饉始1833＝28歳：3回目の京都遊学で*王陽明の「伝習録」に触れて開眼，「伝習録抜粋」を著し，
高島砲術・・1834＝29歳：_待望の江戸に出て，佐藤一斎に師事，塾頭を務め，論争を仕掛けて来る同門の佐久間象山を論破しながら，西洋の学にも目を開いて行く。幕末に差し掛かって，昌平黌の権威も失墜していたことから，
・・・・・・1836＝31歳：長女の死去などで_辞して帰藩。藩校{有終館}学頭に出世し，邸宅まで与えられる。
大塩平八郎乱1837＝32歳：
適塾ｵｰﾌﾟﾝ・ 1838＝33歳：_傍ら，農民や女性への教育の必要性を訴えて，実践すべく，自宅に家塾{牛麓舎}を開く。
_この間，備中松山藩は深刻な財政難に直面するようになり，
天保改革始・1841＝36歳：
天保改革弾圧1842＝37歳：_松平定信の孫勝静が藩主の養嗣子に迎えられると，

_学問に優れて改革にも熱心な勝静と″君臣水魚の交わり″と言われるほどの信頼関係を築き，
阿部正弘首座1845＝40歳：

・・・・・・1847＝42歳：_津山藩士が高島秋帆の西洋砲術を学んで帰藩したと聞くや，門弟三島中洲を連れて津山に赴き，儒学講義と引き換えに，西洋砲術や兵学を学んで帰藩すると，早速大砲二門を鋳造するほどで，
北斎没・・・1849＝44歳：死を迎えた勝職が隠退し，*家督を相続して藩主となった板倉勝静の抜擢で，元締役兼吟味役となる。農民出身だったことから，家老らから猛反発が出るも，藩主の支えと自ら倹約の範を示して乗り越え，
国定忠治磔・1850＝45歳：_帰藩した勝静に「時務十二カ条上書」を提出して，藩政改革の急務を説き，
尊徳報徳論・1851＝46歳：_財政再建の方法を七大政策にまとめ，向こう七年間の改革を進言。
万次郎帰国・1852＝47歳：_藩の専売事業を担当する役所{撫育方}を新設するなど，次々と具体化，
ペリー来航・1853＝48歳：_ペリー来航に，日本初の農兵隊を組織し西洋の近代的武装と訓練で最強の軍隊に育て上げて行き，
安政大地震・1855＝50歳：この頃には，幕府崩壊を予想。藩財政再建の目途がたった直後に安政の大地震が起こり，
松下村塾・・1856＝51歳：藩主が寺社奉行となって出費と嵩むも，なお自信を持って対応，_わずか8年で財政再建を成し遂げ，
蕃書調所・・1857＝52歳：_門閥譜代の役職の年寄役に抜擢されるが，持論の藩士士着を進言，帰郷して子弟教育に専念，
五ヶ国条約・1858＝53歳：この年，藩主が安政の大獄に反対して，寺社奉行を罷免される。
安政の大獄・1859＝54歳：率先して西方村に移住。この年，河井継之助が来たのをはじめ，多くの志士が来遊従学。
桜田門外変・1860＝55歳：この年，桜田門外の変で井伊直弼が死去すると，
遣欧使節・・1861＝56歳：この年，藩主が寺社奉行に復職し，
生麦事件・・1862＝57歳：_勝静が老中に就任するや，その顧問として江戸に出，参勤交代制をはじめ″文久の改革″にも貢献するが，

積極的な開国論を唱え，農兵隊が高杉晋作の{奇兵隊}のモデルなるなど，明治維新を先導，
薩摩藩士密航1865＝60歳：一旦辞任した藩主が老中復職後も，顧問となり，幕末政局に対するが，
_尊皇唱えて，勝静と対立したため，再び帰郷。
大政奉還・・1867＝62歳：筆頭老中の勝静が読み上げた大政奉還の上奏文の原案も起草したと言われる。
明治維新・・1868＝63歳：_朝敵として官軍から攻撃された松山城の無血開城を成し遂げ，藩兵が五稜郭に立篭もってたため，岡山藩から謝罪書を書かせられると，家老を励まして″大逆無道″の文字削除に成功して，藩主の名誉を守る。
戊辰戦争終・1869＝64歳：*版籍奉還されると，
初の日刊新聞1870＝65歳：_隠退し，母の里に移って，私塾を開き，

明治6年政変 1873＝68歳：_旧岡山藩士の求めで，閑谷学校を再興し，以後，たびたび出講，

初の民間工場1875＝70歳：_終身禁固の刑に科せられていた勝静が許されて，備中松山に戻ると，

西南戦争・・1877＝72歳：_病に伏し，見舞いにきた勝静に感謝の言葉を伝え，多くの門弟に惜しまれながら，没した。

疋田啓佑「儒者」，中国地方総合研究センター「歴史に学ぶ地域再生」，「人づくり風土記(岡山)」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，